美しくない自然

笹原　治

自然は美しくありません。楽しくありません。なぜなら、自然は人間を楽しませるためにあるのではないからです。

渓谷をまっ紅に染めあげる紅葉、美しい満開の花々をみれば私達はすばらしいなあと感じます。森のなかでさえずる小鳥のうつくしいさえずりを聞けば心がなごみます。しかし、もみじの葉が赤くなるのは、冬にそなえ葉を落とす準備をしているためです。花が咲くのは種子をつくり子孫を残すためです。鳥が鳴くのはめすを呼びよせたりなわばりを主張するためです。生物が生きていくために必要な営みを行っているだけなのです。この生き物のすがたを、人間は勝手に感動しているだけなのです。

ところが、現代のように人間の住む都市と自然が引き離されるようになると、「勝手に」楽しむという原則を忘れてしまうようです。自然は人間が鑑賞するためにあるという感覚です。鑑賞をするためには便利なほうがよいにきまっています。そのために多くの観光道路が山はだを削ってつくられていきました。鑑賞のさまたげになるようなら、雑草や藪は刈りはらわれてしまいます。

今、新潟市の郊外の海岸では親水護岸の工事が行われています。それはゆるやかな勾配でコンクリートブロックを並べたものです。これなら海岸の浸食を防ぐこともできるし市民が海で水遊びをするのにも適しているわけです。このブロックに腰掛ければ目の前に広がる日本海や遠くにかすむ佐渡、そして、海に沈んでいく夕日をながめることができるでしょう。しかし、この工事のために砂丘の植物群落はつぶされてしまいました。海をみるためには砂丘などじゃまなのでしょう。砂丘の植物群落は役にたたない草原に見えたのでしょう。しかし、その一方で新潟市の中心部の西海岸公園では失われた砂丘をなつかしむという名目で、はまぐみやはまなすを植栽しています。花や実の美しい植物でなければ存在を認めてもらえないようです。

私たちは、多くのことを自然に期待しています。自然は私たちにもっと美しいもの・楽しいものをサービスしてくれると思っています。ゴルフ場ではすばらしい自然を満喫しながらプレーができます。スキーをしたいならばリフトで上に登れば後はおもいっきり白銀の世界のなかを滑ることができます。森林を伐採し白樺を少しばかり残しテニスコートをつくれば「白樺の高原」となり、楽しい夏を過せるところになります。美しい景色、おいしい空気、自然は私たちを満足させてくれます。

しかし、もちろん、このように人間に気にいられるように着飾った自然には無理がかかっています。自然破壊をともなっているということです。みんな自然を愛する気もちをもっているのに、そのことがかえって自然を傷つけてしまうのです。自然は人間を楽しませるためにあるにではないのです。それなのに、まるで遊園地でアトラクションをうけるかのような期待を自然に対していだいているのではないのでしょうか。リゾートというのはそんなわがままな要求をみたそうとするものです。そのために自然を生かした施設といいながら自然はゆがめられ破壊されることになってしまいます。

これは、私たちが自然に対する感性が受け身すぎることに原因があるのではないのでしょうか。観光地にいけば黙っていても自然が感動をあたえてくれると期待しているのではないでしょうか。自然保護か観光開発かという問題は多くの場所でおこっています。自然を傷つけずに自然を楽しむためには、もっと人間の方から自然に歩みよる必要があるのではないのでしょうか。もちろん、自然はすばらしいことばかりではありません。カ、ダニ、アブ、ヒルなどいやな虫はいくらでもいます。藪のなかを半ズボンで歩いたらノイバラやキイチゴのためにたちまち傷だらけになります。ゴム長靴でなければ歩けないところも多いでしょう。泥だらけになることも覚悟しなければなりません。でも、それでもよいのではないのでしょうか。自然のいやな面もあることを含めて愛好するのでなければ、それは人間の思い上がりというものです。

自然、それ自体が美しいのではありません。「美しい」と感じるのは、私たちの感性なのです。（株　グリーンシグマ）